

第30回 口腔機能って何だろう？

＝「認知症の方」の食事拒否の原因と対処法について＝

(その5)

北九州在宅医療・介護塾
塾長 久保 哲郎

前回に引き続いて、認知症の方に対する「食べさせるコツ」についてご紹介します。

④一口分の量に気をつける。小さじに1杯分(20ml)が食べやすい量です。1口分の量が多すぎると食べにくく、反対に少ないと口に入れても食べ物を認識できないために咀嚼をすることや、食塊形成後に生じる嚥下反射も起こらないため、その結果として誤嚥することに成ります。飲み込みが悪くなった場合には、1口に飲み込める量は減少するため、食事状態について観察することが必要です。

次に、⑥目の高さを合わせる。食介護する人が高い位置にいると見上げて食べることになり、そのため、顎(あご)が上がってしまい誤嚥しやすくなります。食介護する人と介護される人の位置は、同じ目線になるよう心掛けましょう。そして、この位置関係になると威

圧感もなくなり食べやすい気分にもなります。

また、喉仏の上下の動きも観察しやすくなるため、ゴックンと飲み込んだ時の確認もしやすくなり、さらに、口を開いた時に食物が口の中にいないかどうかについても確認しやすくなります。

⑥食事は適温で提供する。温かい料理は温かく、冷たい料理は冷たくして提供すると嚥下をスムーズにする効果があるようです。勿論、適温の範囲内になりますが、メリハリが利いた食事は食欲を注ぎます。

料理にあった温度で提供しましょう。

⑦食べ物と飲み物(お茶や水など)を交互に使用して食べる。食べ物と飲み物を交互に摂ることによって、口の中に残った食べ物を旨く飲み込むことができ、誤嚥を防ぎます。

次回につづく。

介護者と患者の位置

